

避難行動を考えておきましょう

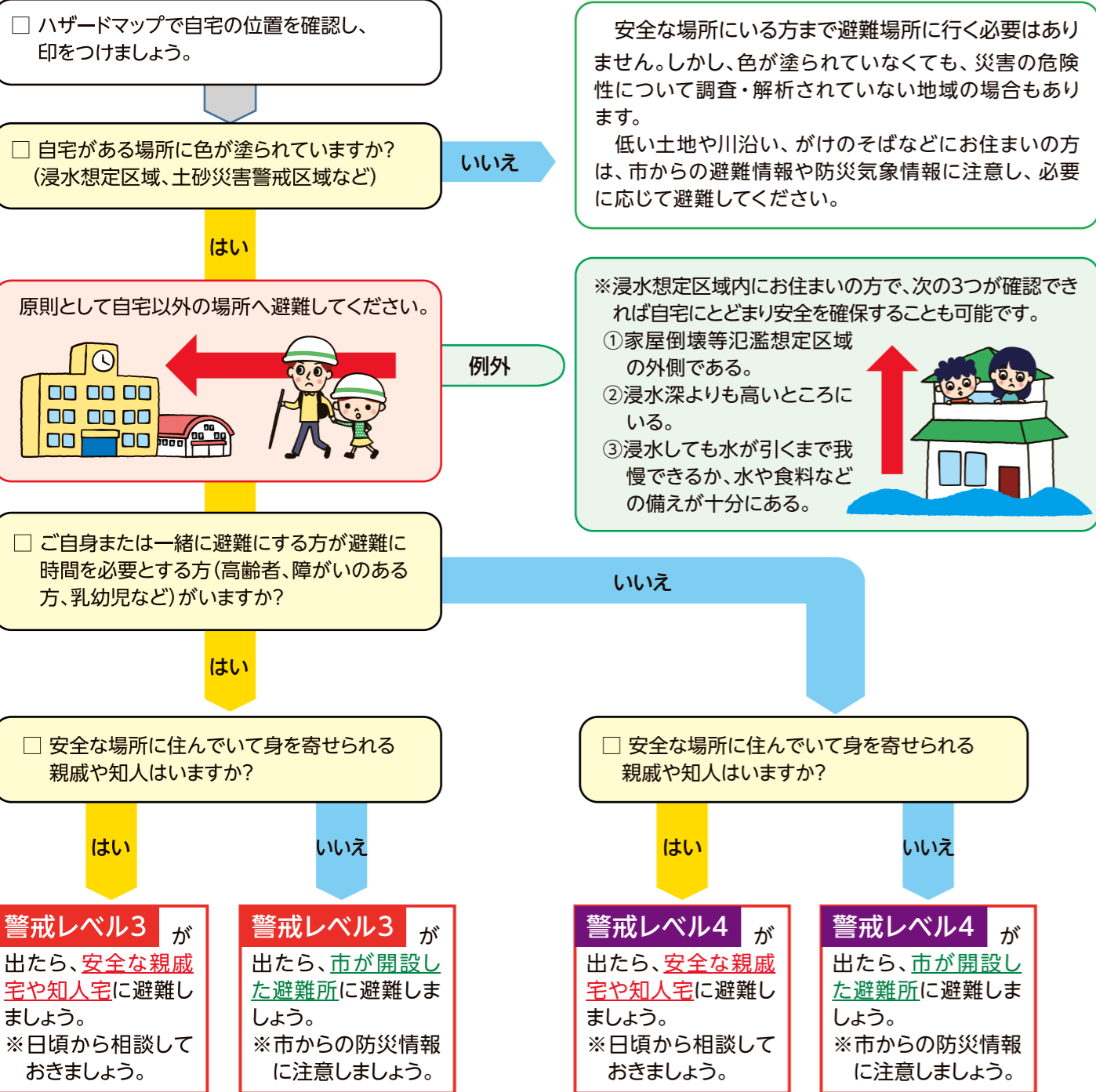
とるべき避難行動を考えておきましょう

災害発生時に人は「自分は大丈夫」といった「正常化の偏見」という心理状態に陥るといわれています。そのような状態にならないよう、次のような点に気をつけておきましょう。

- 「避難しよう」と判断するのはあなた自身です。避難することで助かるのは、「あなたの命」であることを強く認識してください。
- 実際に災害が発生せず、避難したことが「空振り」に終わったとしても、「被害がなくて幸運だった」と前向きに受け止めましょう。
- 過去の災害で大丈夫だったからといって安心できません。過去より悪い方向に状況が進む場合があります。
- 夜間から明け方にかけて大雨や台風の接近が予想される場合は、明るい時間帯での避難を呼びかけます。早めの避難行動を心がけてください。

避難行動判定フロー

「自分の命は自分で守る」という意識を持ち、自宅周辺の災害の危険性やとるべき行動を平常時に確認しておきましょう。



避難判断の情報～5段階の警戒レベル～

水害・土砂災害について、5段階の警戒レベルの名称や考え方が令和3年(2021年)から変わります。もしもの時には、情報をより早く、より正確に知り、避難情報に応じた避難行動を取りましょう。

警戒レベル	状況	住民がとるべき避難行動等	行動を促す情報
5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保【市が発令】
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難!> ~~~~~			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示【市が発令】
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難【市が発令】
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨注意報 洪水注意報など【気象庁が発表】
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報【気象庁が発表】

※災害の状況が急変した場合は、警戒レベル1～5の順番で避難情報が発令されるとは限りません。

**警戒レベル5**は、既に災害による被害が発生した大変危険な状況であり、このタイミングでは避難することが危険な場合もあります。直ちに命を守る行動をとってください。大規模災害において、市が災害の状況を把握できるものではない等の理由から、発令されないことも想定されます。

**警戒レベル3**は、高齢者等以外においても避難を検討し始めるタイミングになります。危険を感じたり、自宅周辺に変化があった場合は、自主的に避難をしましょう。

## 避難にかかる時間を考えましょう

避難にかかる時間を計算して、避難行動を開始するタイミングを考えましょう。



はじめに  
日頃から備える  
避難について  
災害から身を守る  
洪水・土砂災害ハザードマップ  
役立つ防災知識